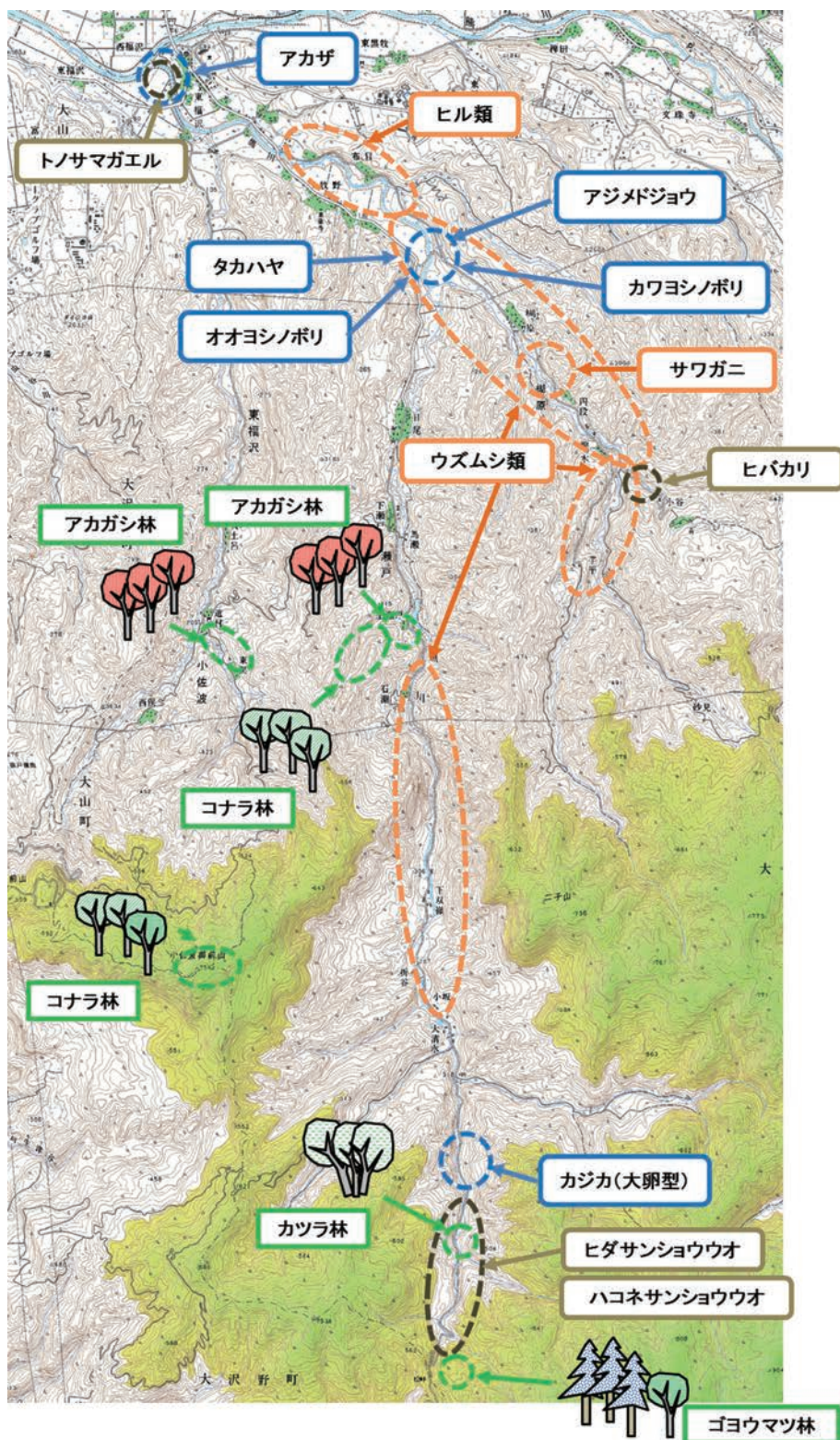


# 黒川流域の生き物



黒川は神通川水系熊野川の支流で、富山市南部の桧峠（標高約528m）のある稜線を源に、山間地から丘陵地へ約12.5km北流し、富山市東福沢で熊野川に合流する。源から9km下った日尾地区で右岸から棚ヶ原川、さらに2km下った東福沢地区で左岸から小佐波川を合わせている。

黒川本流に沿って作られた桧峠への道は、江戸期から昭和初期まで栄えた長棟鉱山からの鉛や亜鉛などの鉱石の搬出路でもあり、飛騨地方に通じる重要な道であった。その後は、材木、炭、石炭の運搬路として利用されている。かつて、この地域は梅雨や台風の時に、家屋の浸水や流失が生じたため、黒川ダムの建設が計画されたが、水利用需給の減少により、2002年（平成14年）に計画中止が決定された。また、黒川の川沿いの集落の過疎化は著しく、すでに大双嶺（おおぞうれい）と千長原（せんながはら）は廃村になっている。



熊野川との合流点（富山市東福沢）



牧野橋



最上流



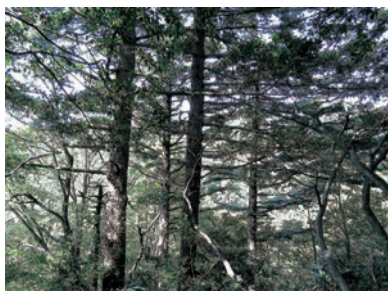
桧峠

#### [調査年と分野]

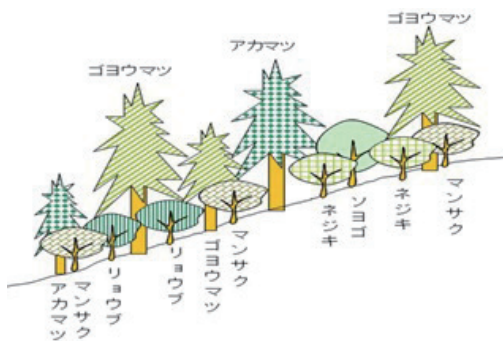
調査は2013年に実施し、調査分野は、植物（森林群落）、底生動物、魚類、両生類・は虫類、ツキノワグマの採食痕跡、ほ乳類である。

### 森林群落

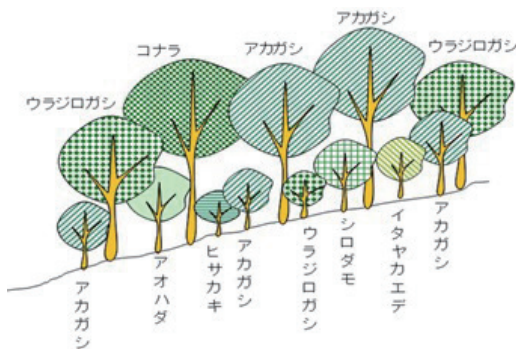
黒川流域のほとんどの場所は森林植生（92％）で、それ以外の8％は水田等であった。森林植生で一番多かったのはコナラ・アカマツ林（52％）で、次がスギ植林（27％）、その次がブナ・ミズナラ林（5％）であった。黒川流域の最高標高は900m程度で、標高の低い丘陵地域が多いため、コナラ・アカマツ林の割合が高いと考えられた。稜線部にはゴヨウマツ林、急傾斜地にはウラジロガシ林、河畔にはケヤキ林、カツラ林、アカガシ林が分布していた。また、ブナはミズナラと混交林を作ることが多いが、小佐波御前山（おこなみごぜんやま）の山頂ではコナラ林にブナが混交していた。



ゴヨウマツ林



桧峠ゴヨウマツ林の断面模式図



道村アカガシ林の断面模式図



## 水生昆虫

黒川からは8目48種の水生昆虫が確認されている。最も種数の多いのはカゲロウ類で16種、次いでトビケラ類の10種、トンボ類とカワゲラ類が6種となっており、他の双翅類等は少なかった。カゲロウ類ではマダラカゲロウ類の種数が多く、コカゲロウ類やヒラタカゲロウ類は少なかった。トビケラ類ではヒゲナガカワトビケラ、ウルマーシマトビケラが、トンボ類ではコオニヤンマ、コヤマトンボ、溪流棲のサナエトンボ類が見られた。

## 底生動物

他の河川では少ないナミウズムシやサワガニが比較的多く見られたが、確認できたのは5種で、調査河川で最も少なかった。県内の河川の中・下流に普通に見られるサカマキガイやヒメモノアラガイなどの動物が全く見られず、シマイシビルやカワニナも熊野川との合流点付近だけでしか見られなかった。中・下流の環境はきわめて限られるためであろう。

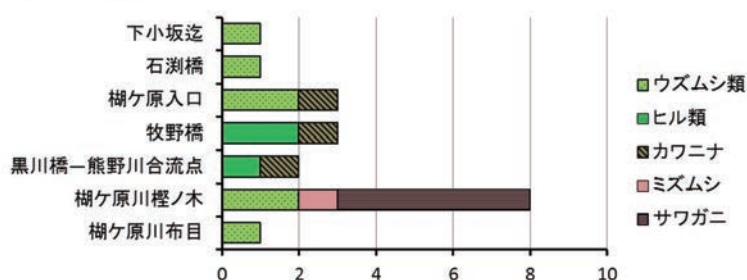


サワガニ



ナミウズムシ

黒川で確認した底生動物の個体数(上流から河口へ)



## 魚類

16種が確認され、そのうち海と川を往来するアユやオオヨシノボリなどの通し回遊魚が6種と少なく、海から遠い地点の黒川の特徴を示した。榑ヶ原橋（定点3）より下流域で多くの種が見られ、スナヤツメやアジメドジョウ、アカザも確認された。また、カワヨシノボリとオオヨシノボリがほぼ同じ場所で採集された。



オオヨシノボリ

黒川の出現魚類

№	科名	和名	1	①	②	2	3	4	③	5	6
			新黒川橋 10/15	黒川橋 10/11	晩橋 5/31	牧野橋 10/15	榑ヶ原橋 10/15	石淵橋 10/15	中山橋上流 5/31	千長原川 10/15	上流 10/15
1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ	7	1		2	7				
2	アユ科	アユ	5		目視	4	1				
3	サケ科	ニッコウイワナ					1		2	6	5
4		ヤマメ	3			2	5	1			
5	コイ科	カワムツ				1	2				
6		ウグイ	2	7		3	3				
7		アブラハヤ	5	3		1					
8		タカハヤ		5	2		8				
9	ドジョウ科	ドジョウ		1		1					
10		ニジマドジョウ		3			2				
11		アジメドジョウ		1		2	1				
12	アカザ科	アカザ	2								
13	ハゼ科	オオヨシノボリ	6	1		6	4				
14		シマヨシノボリ		1							
15		カワヨシノボリ	18	28	11	8	5				
16	カジカ科	カジカ(大卵型)							1	3	3
個体数 計			48	51	13	30	39	1	3	9	8
科数 計			6	4	3	6	6	1	2	2	2
種数 計			8	10	3	10	11	1	2	2	2

## 両生類・は虫類

両生類は11種が確認された。上流は谷が深くヒダサンショウウオやカジカガエルが見られた。流域には池が少なく、ため池などに産卵するクロサンショウウオは目撃できなかった。道路脇の小さな水たまりではアカハライモリ、トノサマガエル、ツチガエルが見られた。モリアオガエルは水をためるコンクリートの枠で産卵が見られた。

は虫類は低山に生息する代表的な6種が確認された。林床で見られるジムグリの轢死体が道路沿いで見られ、県内で比較的記録の少ないヒバカリが確認された。

## 黒川流域で確認した両生類・は虫類

	下流の水田 (東福沢)	中流周辺の 集落と水田	上流周辺 (谷川・沢)	林道	周辺の池
ヒダサンショウウオ			○		
ハコネサンショウウオ			○		
アカハライモリ				○	○
ニホンアマガエル		○			
タゴガエル			○		
ヤマアカガエル		○			
ツチガエル			○		○
トノサマガエル	○	○		○	○
シュレーゲルアオガエル	○	○			
モリアオガエル		○		○	○
カジカガエル			○		
両生類の種数	2	5	5	3	4
	11				
ニホンカナヘビ			○	○	
ジムグリ	○				
アオダイショウ				○	
シマヘビ	○	○			
ヒバカリ			○		
ヤマカガシ		○			
は虫類の種数	2	2	2	2	0
	6				



アカハライモリ



カジカガエルのペア



ヒバカリ

## ツキノワグマの採食痕跡、ほ乳類

2013年11月に黒川流域の林道約20kmで調査したところ、ミズキ2本にクマ柵を確認した。黒川流域で調査した合計35本のカキの内、2011年以前の爪痕は32本（91%）と高い割合であり、2012年秋、2013秋の爪痕はそれぞれ3本（9%）、4本（11%）と少なかった。

ほ乳類は、中型7種（ニホンザル、ニホンノウサギ、キツネ、タヌキ、テン、アナグマ、ハクビシン）、大型3種（ツキノワグマ、イノシシ、カモシカ）を確認した。イノシシは近年増加し、黒川流域のいたるところで土を掘り返した痕跡が見られ、夜間に親子づれや仔（ウリ坊）が林道で目撃された。ニホンジカは文献で報告がある。また、コユビナガコウモリやシントウトガリネズミなどの小型ほ乳類も確認された。



イノシシ

## まとめ

黒川は熊野川の支流で、流域に平野部は少ない。河川に沿って、長棟鉾山と結ぶ街道があったため、上流域まで集落がある。棚ヶ原橋では淡水にすむカワヨシノボリと海から遡上してきた回遊魚のオオヨシノボリが混在していた。下流域は河川勾配が緩いため、堰堤などの構造物も少なく魚が往来しやすい環境となっている。しかし、石淵橋より上流域は急流で、堰堤なども多いため、魚種が著しく少ない。カジカガエルとヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオは溪流の周辺でよく見られた。ため池が少ないことも特徴であった。流域内の林道沿いではイノシシの痕跡が多く見られた。河川沿いの急斜面にはアカガシ林やウラジロガシ林などの照葉樹林が残っている。